

■執筆者紹介

小谷 範人（こだに のりと）

尾道大学経済情報学部経済情報学科教授。博士（経済学）

都市銀行で30年間勤務した後、2001年より教壇に立っています。専攻分野は金融で、大学では「金融論」「金融実務」「アジア経済事情」「キャリア形成入門」「インターンシップ」を、大学院では「金融システム特論」を担当しています。著書として『シンジケートローン市場構造と市場型間接金融』などがあります。

また、キャリア開発委員長として学生の進路支援を推進しているほか、社会人基礎力養成プロジェクトに取り組み、学生の考え抜く力・行動力・チーム力を育成するとともに、地元経済活性化にも努めています。

下野 由貴（しもの よしたか）

尾道大学経済情報学部経済情報学科講師。博士（経営学）

専攻分野は、経営戦略論、経営組織論です。研究テーマは、「日本企業の海外展開」、「グローバル・サプライチェーン・マネジメント」、「自動車産業の国際比較」などです。

また、大学の専門演習（ゼミナール）では、学生とともに「尾道酢の経営学」「尾道帆布の経営学」など、地場産業やコミュニティ・ビジネスの研究調査も行っています。

児玉 康兵（こだま こうへい）

尾道大学芸術文化学部美術学科教授。専門分野、彫刻、都市環境造形。

大学で彫刻を専攻し、倉敷の都市計画を推進した建築家浦辺鎮太郎氏に師事、建築を学ぶ。ミラノブレラ美術学院環境彫刻家カッシーラ研究室に所属し、ヨーロッパ各都市を遊学、見聞する。帰国後、児玉環境造形研究所設立。東洋思想に基づく環境造形を日本各地に設置している。第3回横浜ビエンナーレ受賞設置、第8回国民文化祭受賞設置、巖島神社世界文化遺産制定記念碑設置、その他受賞設置多数。現在、尾道の石造文化を研究している。

鷹橋 明久 (たかはし あきひさ)

尾道大学芸術文化学部日本文学科准教授。中国文学専攻。

専門分野は中国六朝期の詩文で、主として中国魏晉交替期に生きた竹林の七賢という隠者についての研究をすすめています。幕末から明治にかけて活躍した漢学者についても関心を有しており、阿波藩が生んだ傑士・岡本韋庵が著した『古今文髓』に関する論攷は、『アジアへのまなざし岡本韋庵』（阿波学会、2004年12月、共著）に収録されています。

藤川 功和 (ふじかわ よしかず)

尾道大学芸術文化学部日本文学科准教授。日本中世文学専攻。

主に鎌倉時代中期の日記や和歌を研究対象としています。

最近のマイブームは歌合（歌人が左方と右方に分かれて、双方がせーので歌を出し合い勝ち負けを競うもの）で、提出された和歌の表現を点検し、それぞれの歌合において繰り広げられた（であろう）《人間ドラマ》を再現するという野望を胸に日夜本文と格闘しています。

「宝治元年『院御歌合』の西園寺実氏」（『国語と国文学』第83巻第6号平成18年6月）はそのささやかな試みです。また、本年12月には有志による丸ごと一冊歌合カーニバルな「寛元元年『河合社歌合』注釈と研究」（尾道大学中世文藝研究会編 「尾道大学日本文学論叢」別冊）を刊行予定です。